

## **国際観光学科 1年 後期 専門基礎科目／専門科目**

1. 観光実務英語実践演習
2. 海外インターン実習
3. 海外インターン実習事後指導

## 国際観光学科

科目名: 観光実務英語実践演習				担当教員 氏名: Victor Raquid Vidal		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門基礎科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 旅行業界勤務の経験を最大限に活かすとともに、インターン中の現地指導社員とも連絡を密にとる中で適切な指導を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
オーストラリアインターンの内、それぞれ各企業の指導社員(Japanese Speaking)により、1日の業務終了後、事前に各人設定の英語実践目標に照らし合わせて評価指導が行われる。さらに本学からの派遣教員による定期的な評価がなされる中で、さらに効果的な演習になるような目標の見直しを行う。						観光英語
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1、2、3、4、5、8	
B 専門的技術			社会貢献・自己実現に技術が活用できる。			
D 問題解決力			問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。			
E 自己管理能力			自らを律して行動できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: % その他: 100 %
特記事項: インターン先の現地指導社員とのヒアリング、指導教員としての毎日の連絡の中で成績評価を行っていく。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <b>実習、フィールドワーク</b>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストなどは実施しない。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: インターン終了後、事後指導の中でふりかえりをしたい。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
②インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
③インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
④インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑤インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑥インターンIの指導社員と、2か月間のふりかえりを行い、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑦インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑧インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑨インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑩インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑪インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑫インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑬インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑭インターン先の指導社員から、毎日の業務終了後、成果と反省に関する指導を受ける。				指摘事項のReview	60分	
⑮帰国前にCTU 指導社員と4か月間のインターンIIのふりかえりを行う。				指摘事項のReview	60分	
使用テキスト: なし				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

## 国際観光学科

科目名: 海外インターン実習				担当教員 氏名: 藤本 幸男、米田 晶、齋藤 望、Victor Raquid Vibal					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
8	1年次 後期	専門科目	実習	必修					
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		過去の海外インターン派遣経験や、オーストラリア現地企業の実態を踏まえたうえで、学生の成長に最も効果的な授業を行う。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
観光産業界の各分野における実践活動を通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについて考え、また自らの強み、弱みに気づき、人間的な成長を期するために実施する。具体的には、観光先進国オーストラリアでの6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は旅行会社、ホテル、国立公園などで、様々な業界の実態、将来に向けた方向性についても学ぶ。また事前指導において設定した個人目標に対する自己評価、指導社員評価、帯同教員評価を日常的に実施する。実習終了時には、現地指導社員、指導教員による総括評価を受ける。実習の目標は、①人間として成長する、②海外で働くことを理解する、③英語力を高める、である。									
1 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		1、2、3、4、5、6、7、8、9							
B 専門的技術	社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。								
D 問題解決力	インターン実習での問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。								
H コミュニケーション力	言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: 評価は、個人の自己評価、及びインターン先企業の指導社員による評価とする。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <b>実習、フィールドワーク</b>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストはない。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 指導社員との、毎日の定期連絡、毎週のレポートにより課題の解決を図る。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容	学習に必要な時間(分)					
①1週間程度の語学学校での英語力判定			語学学校資料による予習復習	授業全体で240時間					
②約2か月間のインターン実習A(外資系観光企業)			現地企業社員の指導の毎日のふりかえり						
③約2か月間のインターン実習A(外資系観光企業)									
④約2か月間のインターン実習A(外資系観光企業)									
⑤約2か月間のインターン実習A(外資系観光企業)									
⑥約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)									
⑦約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)									
⑧約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)									
⑨約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)									
⑩約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)									
⑪約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)									
⑫約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)									
⑬約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)									
⑭約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)									
⑮シドニー(2泊3日)における研修旅行									
使用テキスト: なし			その他参考文献など:						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 半年間に及ぶ海外インターン実習は、日本の大学では初めての試みです。単なる語学研修と異なり、実際に現地企業で働くからには、楽しい経験だけではなく、時には心が折れそうになることもあるかもしれません。それらの様々な経験が諸君たちの人間力を何倍にも大きくしてくれることでしょう。また諸君は一期生でもあります。パイオニア精神でチャレンジしてください。									

## 国際観光学科

科目名: 海外インターン実習事後指導				担当教員 氏名: 藤本 幸男、米田 晶、齋藤 望、Victor Raquid Vidal					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門科目	講義	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		過去の海外インターン派遣経験や、オーストラリア現地企業の実態を踏まえたうえで、学生の成長に最も効果的な授業を行う。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
実習終了後、4日間の集中講義で振り返りを行う。具体的には、事前に設定した自らの目標に対する、成果と反省をまとめ、グループディスカッション、指導教員、現地駐在教員等の指導を受けながら今後、1年間の短大での課題、自らの進路等について新たな目標設定を行う。					強味、弱みの把握、進路、新しい挑戦				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			1、2、3、4、5、8						
C 論理的思考力			オーストラリアでのインターンで得た情報、知識、経験を複眼的、論理的に分析し、表現できる。						
D 問題解決力			オーストラリアでのインターンや今後の進路について、問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。						
H コミュニケーション力			言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 2月3日～8日までの集中講義									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> <u>ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: インターン実習の総括レポート作成、その発表									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 発表の後、指導教員、学生によるディスカッション。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
①集中講義1日目(1) インターンの成果と反省(自らの3目標に対しての自己評価)					集中講義2日目の準備	60分			
②集中講義1日目(2) インターンの成果と反省(自らの3目標に対しての自己評価)					集中講義2日目の準備	60分			
③集中講義1日目(3) インターンの成果と反省(自らの3目標に対しての自己評価)					集中講義2日目の準備	60分			
④集中講義1日目(4) インターンの成果と反省(自らの3目標に対しての自己評価)					集中講義2日目の準備	60分			
⑤集中講義2日目(1) 成果と反省の発表					集中講義3日目の準備	60分			
⑥集中講義2日目(2) 成果と反省の発表					集中講義3日目の準備	60分			
⑦集中講義2日目(3) 成果と反省の発表					集中講義3日目の準備	60分			
⑧集中講義2日目(4) 成果と反省の発表					集中講義3日目の準備	60分			
⑨集中講義3日目(1) ディスカッション「人間的な成長」					集中講義4日目レポート準備	60分			
⑩集中講義3日目(2) ディスカッション「海外で働く」					集中講義4日目レポート準備	60分			
⑪集中講義3日目(3) ディスカッション「英語力」					集中講義4日目レポート準備	60分			
⑫集中講義3日目(4) ディスカッション「英語力」					集中講義4日目レポート準備	60分			
⑬集中講義4日目(1) グループワーク①					集中講義4日目レポート準備	60分			
⑭集中講義4日目(2) グループワーク②					集中講義4日目レポート準備	60分			
⑮集中講義4日目(3) レポート作成「2年次へ向けての新たな目標」						60分			
使用テキスト: なし					その他参考文献など:				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ほかの大学生ができないような、せつかくの海外インターンを経験したのです。2年次へのモチベーション、さらには自分の進路に挑戦的に向かっていけるふりかえりにしてください。									